

第 41 回 県立近代美術館協議会 結果概要

日 時：平成 28 年 3 月 15 日（火）

場 所：近代美術館会議室

<報告事項>

収蔵品収集審査部会の審査結果

（柳原会長）全国の県立美術館で購入予算を持ち、日本画を 2 点も購入できる場所はほとんどない。美術館の実力は所蔵している作品による。今回の作品が今後の活動に生かされることを期待する。

<議 事>

（1）平成 27 年度事業実績について

（委員）

たいけん美術館いい企画。ただし子どもたちが作品に近寄ると厳しく制止される。もう少し、学芸員等と一緒に場合はソフトな対応に緩和できないか。

アートにどぼん、素晴らしい。周りで来た人に聞いても評判良かった。

なかなか館の取組の情報がいきわたっていない。情報を手に入れる術の工夫を。

（委員）

アートにどぼん。来場者 1 日で 2500 人はすごい数字。ロコミ・作家からの発信も大きかったという事で、地道な情報発信が実を結んだのでは。

（委員）

水口で開催した子育て応援フェスタに、お出かけミュージアムでびっくりコラージュを開催してもらったら、大変多くの人でにぎわった。

美術館からは遠い場所であるが、近代美術館がやっていることを知ってもらえる機会になった。ぜひ続けてもらいたい。

（委員）

京都国立近代美術館の志村ふくみや、マイヤーガーデン、驚くほど多くの人 coming。館に来た人の数だけではなく、近美の作品に県外、国外で触れた人の数も大切ではないか。

美の滋賀深い学び塾の最終回では、まとめの会を近代美術館で開催した。15 人のうち半分は 20 年ぶり以上に美術館に来た人。美術館の良さを再認識してもらった機会になった。

アートにどぼん。関係者が個々にフェイスブックで情報発信したことが大きかった。広告媒体、アナログ媒体と電子媒体をうまく取り入れながら展開していけば、可能性が広がるのでは。

（2）平成 28 年度事業計画案について

（事務局）

4 月以降、レストラン（だいずや）について、人手の確保が困難で営業継続が難しいと聞いている。

(委員)

ギャラリー利用団体同士が横のつながりを持って、連絡をつけられるようにできないか。ギャラリーの利用期間もうまく調整できるのではないか。

(委員)

滋賀近美としてフェイスブックあった方がよいのではないか。

(会長)

フェイスブックについて管理が難しい側面もある。京近美は担当者をしっかり決めている。

(委員)

参加者や観客個人が口コミをフェイスブックで広げるような工夫があればいい。

(委員)

びわ湖放送で流れているか。

→事務局 びわ湖放送では取り上げてもらっている。

(委員)

事業実績として、他館に作品を貸し出している事績を追加してはどうか。

→館長 そういった面を評価していただけるのは大切。対応したい。

(会長)

入館者数だけでなく、美術館は有料観覧者率で評価される傾向がある。

(委員)

美術館に素晴らしい作品が収集されていること、地域に根差した本物があることを、もっと発信したほうが良いのでは。

(3) コレクション形成部会委員の指名について

→特に意見無し

(4) 新生美術館の整備の状況について

(委員)

開かれた、地域と繋がる美術館に期待。特に子育て世代が気軽に立ち寄れる場になることを期待。

SNS での発信重要。様々な立場で協働をできる仕組みづくりを。

(委員)

アール・ブリュット、日が当たらなかったところに、コレクションの決断は良かった。全国の先鞭を切って、いいコレクションを持てるようにしていきたい。

(委員)

アクセスの問題、車でないと来られない。改善策。公園と美術館の一体化を。今回の公園整備を機会に公園内すべての施設で、健全者利用の駐車場を無くすことができないでしょうか。職員のクルマが近くまで入っていて、利用者が遠くの駐車場というのはいかがか。

(委員)

近隣のクルマで来る施設との連携（例えばフォレオ大津一里山）を考えてもいいのでは。特に子育て世代の場合は有効ではないか。

これから工事設計が本格化する時期。日本各地の美術館の学芸員からは実施設計に対する不満を

聞くことが多い。実施段階では、実用性を優先したほうがよい。

(委員)

仏様も展示されるので、火災や耐震、自然災害から美術品を守る点をしっかり考えてほしい。虫の問題もある。

建物の存在感を主張しない建造物という認識をもっている。イメージ的には悪くないのではないかと思えるようになってきた。

(委員)

子どもの参加や鑑賞を館として融合していくにあたってのリスクも有るので、十分リサーチして把握を。

アメリカンポップアートの良い作品があることもアピールできれば。

(会長)

3つの柱を立てていること、大変有意義。

そもそも建築家の考えと学芸員は合わないことが多い。京都国立博物館も半年開館が遅れたあげく課題が多い。充分留意してもらいたい。